

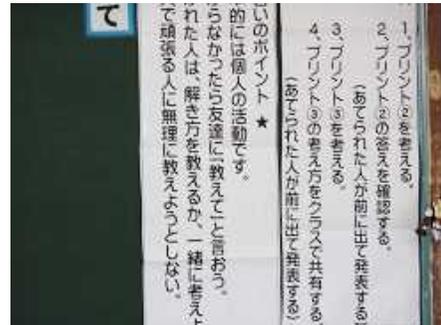


## 学び合いの授業づくり④(1年国語科)2017.12.1 学びの風景

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指して～

本年度、第4回目の「学び合いの授業づくり」研究授業・研究協議会を実施しました。研究授業では、生徒の学ぶ姿に視点(①どこで学び合いが成立したか。②どこで学び合いがつまづいたか。③どこに学び合いの可能性があったか。)を当てて授業を参観し、その後、教員相互による研究協議会を行いました。

今回も「学びの共同体」のスーパーヴァイザーである馬場宏明先生に来校していただき、生徒の学ぶ姿を見てもらいながら、授業づくりのポイント、21世紀型のグループ学習等について助言をいただきました。



「学び合いのポイント」を明示する

### グループ学習の約束

- ・まずは独りで考えよう
- ・分からなかったら訊こう
- ・訊かれたら応えてね
- ・訊かれるまでは教えない



共有の課題(静かな学び)



共有の課題(わからなかったら訊(き)こう)



訊(き)かれたら応(こた)えてね



共有の課題(教師の指名による発表)



ジャンプの課題(まずは独りで考える)



わからなかったら訊(き)こう



自分の考えを人にわかるように説明する



教師が問いを重ね、生徒の理解を深めさせる



教員相互の学び合い(学びの事実から)



馬場宏明先生の指導・助言

#### 【馬場宏明先生のご指導・ご助言より】

- ・考えようとする力、わからないことに向かう力を育てるのがこの授業である。
- ・授業の始めのあいさつをしてすぐに「学び合いのポイント(約束)」を示し、グループ学習に取り掛からせたのは素晴らしい。
- ・子どもの聴く態度がすごく良い。
- ・子どもに考えさせる場面では、ゆっくり、じっくり考えさせる(あわてさせないように)。
- ・まずは独りで考える場面では、ちょっと難しめの課題で、誰もが夢中になる課題が良い。理解度の高い子どもも夢中になる姿を見て、理解度の浅い子どもも夢中で取り組むようになる。
- ・意図的な指名で発表させる。子どもの言葉で説明させる。そして、教師が問いを重ねることで、子どもの学び(理解度)が深まっていく。